桶川市マスコットキャラクター「オケちゃん」

OKEGAWA hon プラス+ 通信

オケガワホンプラス

No.34
不定期発行

OKEGAWA hon プラス+

テーマは 大人になっても開きたい絵本



今回は、OKEGAWA hon プラス＋スタッフがおすすめする、大人になっても開きたい絵本特集です。

今、改めて大人にとっての絵本の効果が見直されています。長い間子どもたちに読み継がれてきた絵本は、大人が読んでも、むしろ大人だからこそ気付きや感動、癒し、勇気を与えてくれます。

自分が子どもの頃に好きだった絵本を改めて開くとき、昔の自分が甦ります。「ああだったなあ」「こうだったっけ」と色んなことを思い出して、時には絵本を読んでくれた人のこと、その人と一緒の時間まで懐かしく思うことでしょう。

子どものころには気づけなかった発見があるかも知れません。

そしてもちろん、絵本の世界は疲れ切った大人のこころも癒してくれます。

スタッフが、それぞれのおすすめ本を熱く紹介します。皆さんに新たな絵本との出会いがありますように。

声に出して読むとおもしろさが増す！

『うみちゃんのまど』 中川 ひろたか・ぶん 長 新太・ぇ

出版社：偕成社　ISBN：978-4-03-331190-6



うみちゃんが家の窓を飛び出し、おしゃべりな飛行機といっしょにふしぎな世界へ出発！ 行き先は「黄色の国」「ろくでもない国」「一番星の国」「しわしわの国」「わっはっはの国」など、思わず笑ってしまう国ばかりです。読み進めていくうちに、「あれ？」と気づくはず。実は行き先は、しりとりで決まっているのです。飛行機の軽快なおしゃべりと言葉遊びが心地よく続き、ページをめくる手が止まりません。

常識にとらわれない不思議な国々や色鮮やかな絵は、子どもはもちろん、大人の想像力もぐっと解き放ってくれます。凝り固まった頭をやわらかくほぐしてくれるような一冊。ぜひ声に出して、このリズミカルな物語を楽しんでみてください。

どこを見ても、物語がある

『チリとチリリ まちのおはなし』

どい かや・作　出版社：アリス館　ISBN：978-4-7520-0318-2



ふわふわで可愛らしいイラストが特徴の絵本です。ある日、2人の女の子、チリとチリリは、自転車でまちにでかけます。きらきらの毛糸、可愛いものであふれている織物屋さん、そして鳥の声に誘われて路地に入ってみると…。チリとチリリは心惹かれるままに進んでいきます。

この絵本には、端から端まで物語が詰まっているように感じます。ある場所では買い物をしている人がいて、またある場所では織物をしている人がいて。そばにはお昼寝をしている子もいます。誰かの生きた日常が本の中に描かれており、時間がゆっくりと流れているのを感じられます。

絵本中に描かれている可愛くて、のんびりした絵が大好きで、大人になった今でも読んでいると幸せな気持ちになれます。いつも忙しく過ごしている大人にこそ、のんびりと眺めてほしい、そんな絵本です。

・中央図書館、坂田図書館に蔵書があります。

羊と街の大人達がつないだ一着のプレゼント

『アンナの赤いオーバー』

ハリエット・ジィーフェルト・文
アニタ・ローベル・絵
松川 真弓・訳

出版社：評論社　ISBN：978-4-566-00288-3



少女アンナの新しいオーバーが１年かけて完成していく、クリスマス物語です。素敵な赤いオーバーができるまでの道のりは、なんと、羊への挨拶から。刈られた羊の毛が、紡がれ、染められ、織られ、仕立てられと、街のプロフェッショナルのバトンとしてゆっくりと渡されていきます。その過程が面白く、大人のさまざまな技術や知恵が実にかっこいいのがこの本の醍醐味です。

大人になって読み返したくなるのは、アンナのお母さんの行動にも着目できるからでしょうか。この物語の背景は戦後すぐで誰もがお金がなく、それぞれの仕事をしてもらう代わりに、アンナのお母さんは家にある大事な品物を手渡していったのです。お金という便利な媒介物がないがゆえの「手間」のなかに、価値を交換する人同士の温かなつながりが確かに宿っているのも見どころです。

・中央図書館、川田谷図書館、坂田図書館に蔵書があります。



よかったなあ、こぶくん

『もじもじこぶくん』

小野寺 悦子・文　きくち ちき・絵

出版社：福音館書店　　ISBN：978-4-8340-8455-9



とってもはずかしがりやの、こぶたのこぶくん。
アイスクリームやさんに行くのだけれど、もじもじ、もじもじ。恥ずかしくてなかなか注文ができません。

でも、でも、でも‥‥。最後は、こぶくんと一緒に「やったあ！」と叫びたくなります。まるで昔の映画「ロッキー」のようなカタルシス。

誰かのためなら、誰かのためなら、頑張れるんだよなあ。そうだよなあ、こぶくん。

読んでいる自分も喜んで、元気になっちゃいます。絵もいいんだよなあ・・・。

比較的最近の絵本ですが、おすすめです。

・中央図書館、桶川図書館に蔵書があります。

覚悟してください。おなかが空きます。

『おしょくじちゅう ごめんあそばせ』

はらぺこめがね・作 / 絵　出版社：岩崎書店　　ISBN：978-4-265-83257-6



大人になって出会い、これからも大切に読み続けたいと思った一冊をご紹介します。

プリン、スパゲッティ、給食、目玉焼き…。これは誰が食べているのでしょうか。食事の場面をそっとのぞき見るように、ページをめくるたびに答えが明らかになっていきます。どのページを開いても、思わずお腹が空いてしまいそうなほどおいしそうな絵と、見ているだけでうれしくなる食べっぷり。食べる人それぞれの喜びやおいしさが、生き生きと伝わってきます。

「食べる」という毎日の営みは当たり前のようでいて、生きることそのもの。そして、人を笑顔にする豊かな時間でもあるのだと気づかせてくれます。

読み終えたあとには、いつもの食卓が少し愛おしく見えてくるはず。おいしそうな絵に心もお腹も満たされる、何度でも開きたくなる一冊です。

・坂田図書館に蔵書があります。



だいじょうぶ、だいじょうぶ

『こんとあき』林 明子・作

出版社： 福音館書店　ISBN：978-4-8340-0830-2

有名な絵本なので、ご存じの方が多いと思います。多分小学校に上がる前の女の子あきちゃんと、きつねのぬいぐるみのこんが、二人でおばあちゃんのところに旅するお話しです。（それがちょっとした冒険になっています）

改めて読んでみると、とても不思議なお話しなんですよね。絵はリアルで現実の世界のように見えるんだけど（林さんの絵が素晴らしい！）、ぬいぐるみのこんは普通に生きてるし、しゃべる！あきちゃん以外の周囲の人たちも普通に接しています。読んでると、いつの間にか夢の世界に入ってしまっているみたい。

そして、こんが一生懸命あきちゃんに繰り返すセリフ、「だいじょうぶ、だいじょうぶ」。これが、あきちゃんだけでなく、絵本を開いている自分にも向けられているようで、なんだか泣けてきます。

それにしても、こんはかわいいなあ！（あきちゃんのために一生懸命）自分も欲しいなあ！

・中央図書館、桶川図書館、川田谷図書館、坂田図書館に蔵書があります。

桶川市立中央図書館スタッフが選んだオススメ本「大人になっても開きたい絵本特集」

『くまとやまねこ』
湯本 香樹実・文　酒井 駒子・絵
出版社：河出書房新社　ISBN：978-4-309-27007-4
どんなに悲しいことがあっても前に進もうと思える1冊です。

『しあわせの王子』
ワイルド・原作　いもと ようこ・文/絵
出版社：金の星社　ISBN：978-4-323-03607-6
無償の愛に溢れる物語。
大人になってもう１度読み返していただける絵本です。

『ぼくを探しに』
S・シルヴァスタイン・著　倉橋 由美子・訳
出版社：講談社　ISBN：978-4-06-112983-2
見つからない自分のカケラを探しつづけるお話です。

『レクサンダとぜんまいねずみ』
レオ＝レオニ・作　谷川 俊太郎・訳
出版社：好学社　ISBN：978-4-7690-2005-9
美しい絵とやさしい話にきっとあなたも癒されます。

『てぶくろ』
エウゲーニー・M・ラチョフ・絵
うちだ りさこ・訳
出版社：福音館書店
ISBN：978-4-8340-0050-4
体が大きくとも受け入れていく
動物たちに癒されます。

テーマに沿った本を
図書館に
蔵書があるものから
選んでみました。
図書館を
是非ご利用ください。



OKEGAWA honプラス+とは

OKEGAWA honプラス+イベントスペースでは、OKEGAWA honプラス+運営協議会（桶川市・株式会社新都市ライフホールディングス・丸善雄松堂株式会社）が主催して博物館、大学、出版社等と連携し、桶川の市民サービス向上のため、子ども向けから大人向けまで幅広い世代を対象とした学びのサポートをしています。

OKEGAWA honプラス+でのイベントの予定についてはこちらをご覧ください▶

※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

OKEGAWA hon プラス+

おけがわマイン 3F
〒363-0022 埼玉県桶川市若宮1-5-2
OKEGAWA honプラス+
048-786-6353 桶川市立中央図書館



発行者：OKEGAWA honプラス+運営協議会（桶川市・株式会社新都市ライフホールディングス・丸善雄松堂株式会社）
「202611」